

茂木さんが教えてくれたこと



藤沢小学校 6年  
中山 雛乃

私は、何でも見える事が、当たり前だと思っていました。そんな私に、目が見える事は、まほうのようにすばらしい事と教えてくれたのは、茂木さんでした。茂木さんの話は、私の心に、じーんとひびきました。私は、「なんというぜいたくをしていたんだ。」と思いました。茂木さんのように、おさないころから、目が見えないなんて。私もし目が見えなくなってしまうたら、どうしてよいかわからずパニックになり、自分の事がせいっぱいで、茂木さんのようには、みんなのために働けないと思いました。

茂木さんは、「好きで目が見えなくなっただけではない。赤は、どんな色かわかりません。色って何ですか？」とくやしそうに言っていました。私は、そんな事を思った事がないし、経験した事もないのでこのお話を聞いて目の不自由な人のくやしさを考える事ができました。「私にできる事はないのかな。」と考えました。そして、私にできる事があつたらやってみようと思いました。茂木さんは、子どもの時に目が見えないだけでいじめられてしまったそうです。そして、何度も何度も熱く、くやしなみだを流したと言っていました。学校もみんなとはちがう所に通われました。世間からも、きびしくされたと言いました。それでも、中学・高校とがんばって勉強されたそうです。そして、ある時、先生に

「ぼくは、みんなが通う大学に行きたいです。」  
と言うと先生に反対されたそうです。でも、あきらめないで、大学へ何通も何通も手紙を送りました。しかし、返ってくるのは、みんな同じことわりの返事ばかりでした。

そこで、茂木さんは、直接学校へ行き何度も何度も頭を下げたそうです。いくらのみに行っても返事はやはり同じでした。ところが、ある日、その中の一人の先生が「きみの気持ちはよくわかる。だから大学の先生方に、お願いしよう！」と、言っただけでした。茂木さんは、それはもう、うれしい気持ちでいっぱいだったそうです。結果は、電話で「もうしわけない。」

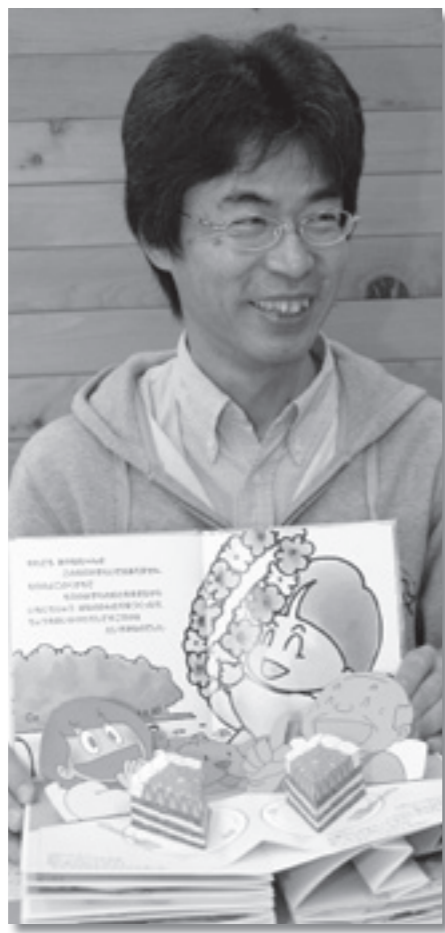
と言う返事がかえってきただけで、茂木さんは、「たのんでくれただけじゃもううれしい。」と思ったそうです。そして、受け入れてくれる大学が見つかりました。私は、何があっても負けない茂木さんが「すごいな。」と思いました。そして、私も、とてもうれしくなりました。

今、茂木さんは、目の不自由なお年寄りが暮らすひとみ園の園長さんです。茂木さんはつらい思いをしたからこそ、同じ人間として、みんなにやさしくする事ができるんだと思いました。

私は、茂木さんに、「目が見える事はきせきのようにすばらしくて、自分の体を大事にしなければならぬ。」という事を教えてもらいました。私達が当り前のようになっている事ができない、目や体の不自由な人達の苦労や気持ちを聞いて、私も茂木さんのようにだれにでもやさしくできる人になりたいと思いました。そして、だれにでも生活しやすい町ができればいいと思います。

# 夢なかるべからず

優しい心と情熱を絵本に



新田 一良 さん

## ミモザの花

ミモザは、春、枝垂れた花を咲かせる。花言葉は、豊かな感受性、感じやすい心。花壇図書館の入口に植えられ、花盛

りには樹全体が黄色に染まる。ミモザの花のように明るく周りを包み込む作家がいる。会社員兼絵本作家 新田一良 花壇図書館主催の手づくり絵本講座に参加したことを契機に 非凡な才能を開花させた。

地元の旬を食べつくせ!  
**かんたん料理レシピ**  
「ねぎとイカの中華風炒め」

材料 (2人分)  
深谷ねぎ1本、イカ1杯、サラダ油適量、酒大さじ1、塩小さじ2/3  
【合わせ調味料】  
だし1カップ、酒大さじ3、みりん大さじ1弱、塩小さじ1弱、コショウ少々、かたくり粉大さじ1強

作り方  
①ねぎは4cmくらいの長さに切る。  
②イカは、はらわたを取り除き、皮をむいて水洗いしたら、食べやすい大きさに切る(この時イカの身が縮まないように隠し包丁を入れるとよい)。酒と塩で切ったイカに下味を付ける。  
③フライパンで油を熱し、ねぎ、イカの順に炒め、全体に油が回ったら、合わせ調味料を入れる。  
④とろみが付いてきたら出来上がり。

Letter  
ありがとうの手紙

優秀賞  
小学校高学年の部

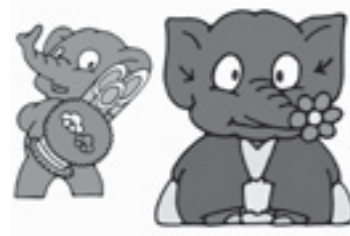
私の両手へ  
深谷西小学校 6年 小原井 愛子 さん

私の両手、いつもいそがしくごいてくれてありがとう。この両手は生きるために食べ物や口に運んだり、思いのまま物を作ったりできる大切な手だ。それって幸せなことだね。でも、世界にはこの両手を人を殺すために使う人がいる。この世の中に生まれて意味のない人なんかいないと思うのに。私は一人一人の両手にも命が宿っていると思う。この両手は命を大切にするために使うべきだ。だからこそ、世界中の人みんなが、自分の両手の意味を考えてほしい。

## はなぞうくん

こにでもいるサラリーマンだ。結婚後、小前田に住み、2児の父である。趣味といえば、昔から読書と絵が好きで、図書館にはよく通っている。ごく普通の男を遅咲きながら世に出したのは妻だ。

子どもが保育園の頃、毎月購入した絵本を持ち帰って来た。その中にあった絵本を募集するチラシ。妻が応募を勧めた。絵本を描いたのはその時が初めてだったが、意外と手応えを感じた。子どもの反応と子どものために描くことが嬉しかった。自分の絵に自信を持ったのは「はなぞうくん」の採用だ。腕試しのつもりで応募したが、世間から評価を得たことで、積極的に絵本の勉強を始めた。無



花壇子ども情報交流図書館アクロスのマスコットキャラクター「はなぞうくん」。平成17年1月、応募総数404点の中から選ばれた

## 飛び出す絵本

優秀賞、大賞、奨励賞、副賞として作品が出版された。また、絵本より手間のかかるポップアップ(飛び出す)絵本にも力を入れている。

22年の国際コンクールでは金賞に輝いた。完成まで6月を費やした力作だ。だが、納得してはいない。届きかけていた最優秀賞を逃したからではない。より良い絵本を、という想いがあるからだ。既に構想は出来ている。豊かな感受性に情熱を乗せた作品に取りかかっている。

夢七訓  
夢なき者は理想なし  
理想なき者は信念なし  
信念なき者は計画なし  
計画なき者は実行なし  
実行なき者は成果なし  
成果なき者は幸福なし  
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず※